

平成21年度東北海区海況予報 第3号

東北海区海況予報は、H20度から、独立行政法人水産総合研究センターと独立行政法人海洋研究開発機構の共同研究により開発されたFRA-JCOPEシステムを用いて行っている。FRA-JCOPEシステムでは、1週間ごとに2ヶ月先までの予測が更新される。詳しくは、<http://fj.dc.affrc.go.jp/>を参照のこと。

《今後の見通し（2009年8月～9月）》（注）FRA-JCOPEシステムによる結果

- (1)近海の黒潮の北限位置は平年並み（北緯 36° ～ $36^{\circ}30'$ ）で推移する。
- (2)釧路南東沖と常磐沖の暖水塊は停滞する。
- (3)親潮第1分枝の張り出しはかなり北偏～平年並み（北緯 $40^{\circ}30'$ ～ $41^{\circ}30'$ ）で推移する。三陸近海に親潮第1分枝に連なる冷水域が形成される。
- (4)親潮第2分枝の張り出しはかなり北偏（北緯 41° ～ $41^{\circ}30'$ ）で推移する。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～やや強勢（東経 143° ～ $143^{\circ}20'$ ）で推移する。

《海況の経過（2009年1月～6月）の特徴》（注）FRA-JCOPEシステムによる結果

- (1)近海の黒潮の北限位置は、2月のやや南偏（北緯 $35^{\circ}40'$ ）を除き、平年並み～やや北偏（北緯 36° ～ 37° ）で推移した。
- (2)1月に釧路の南南東200km沖にあった暖水塊は東に移動した。1月に金華山のはるか沖にあった暖水塊は西進した。1～2月には常磐沖300kmに暖水塊が認められた。
- (3)親潮第1分枝の南限は、1月にはかなり北偏（北緯 $41^{\circ}50'$ ）であったが、それ以外の月では平年並み～やや北偏（北緯 $39^{\circ}30'$ ～ 41° ）で推移した。
- (4)親潮第2分枝の南限は、2月までは平年並み～やや北偏（北緯 $40^{\circ}20'$ ～ $40^{\circ}40'$ ）であったが、

3月以降はかなり北偏～極めて北偏（北緯40° 40' ~ 41° 30'）で推移した。

(5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、3月までは平年並み～やや強勢(東経142° 30' ~ 143°)

4、5月はやや弱勢（東経142° 10' ~ 142° 30'）、6月には平年並み（東経142° 40'）で推移した。

《現況（2009年7月下旬）の特徴》（注）FRA-JCOPEシステムによる結果

(1)近海の黒潮の北限位置は平年並み（北緯36° 10'）である。

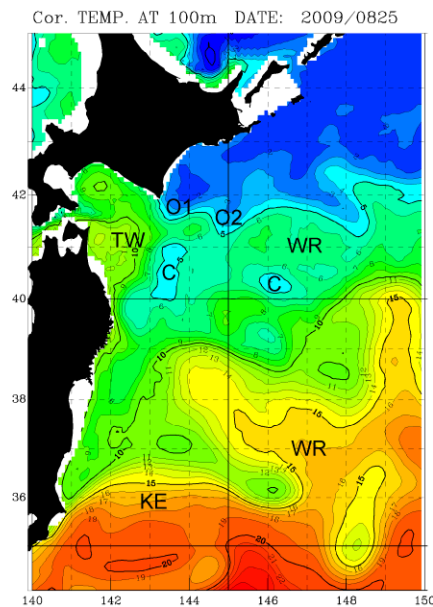
(2)暖水塊が釧路南東沖約300kmと常磐沖約400kmにある。

(3)親潮第1分枝の張り出しは平年並み（北緯40°）である。

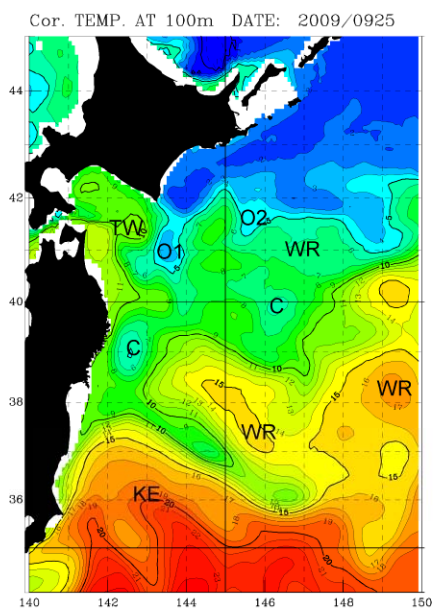
(4)親潮第2分枝の張り出しはやや南偏（北緯39° 40'）である。

(5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しはやや強勢（東経143° 10'）である。

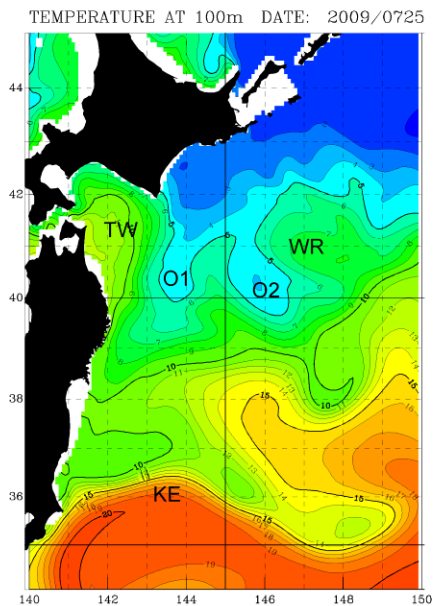
8月下旬予測水温分布図（100m深）



9月下旬予測水温分布図（100m深）



7月下旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれ、O1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、Cが冷水域、WRが暖水塊、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流の位置を示している。